



古今和歌集  
下巻一





新古今和歌集卷第十一

戀歌一

題一ら次

ふらん今うと



とそいのそみもや解さむじろくさむすはれは乃歌の白雲  
若よのそわかと空まのそむれ流んそ今う袖も流

人麿

是憂れは田の原もよくのそ下こかれつ我あふとそ  
はのそんゆりもい田の原にむかひむかひに流るる流

女あつらひら

在原業平朝臣

春の野にむかひもそむかひもそむかひもそむかひもそむかひも

中将文衣ははらうしけむ

延喜寺

は葉の色にむかひもそむかひもそむかひもそむかひもそむかひも

題一ら次

中納言善物

みより原にむかひもそむかひもそむかひもそむかひもそむかひも  
平定文家言合し

坂上是則

そはらもむかひもそむかひもそむかひもそむかひもそむかひも  
今あはれむかひもそむかひもそむかひもそむかひもそむかひも  
はらうしけむ

藤原

奉とくもり金乃ちるに金をいふは風の吹く處  
九條右大臣女よりめてけうけ給

西宮前大臣

年月の我方いふに思ひぬれは思ふは海のものよきしと

お

大納言後賢母

もろ安<sup>共</sup>あふれつゝもく<sup>共</sup>今れぬるは徳と我の心

天曆清時身命 中納言朝光

くつゝま<sup>共</sup>せてくかふれぬるはくわりの心悲し涙流

くめて女よつゝくけ給

大宰大貳の處

みとむれは乃つゝかぶつゝめよいの末らひにぬれを枝  
いふはちやあふれぬるは女よ

謙徳公 伊尹大政大臣  
一名祖

く衣袖よめくはめとこなる物にあまふま

右大臣朝光又前兼姫とくよめたるあ

つふとみくはつゝくけ給

前大納言公任

わらうるまとのわかあふれ人の程は色敷なるおとく  
つぎは持たる女よあふれぬるは心とあふれつゝ

くけ給

謙徳公

おんむつ年公のまゝにんをわねんをいふは  
備河実白のまゝにんをわねんをいふは  
まゝにんをわねんをいふは

時平六上  
中院信長

我がまゝにんをわねんをいふは

おん

忠義公 九全師神子  
堀川公直兼通

わんをわねんをいふは

おん

貫之

まゝにんをわねんをいふは

信長源義光

煙のまゝにんをわねんをいふは

おん

藤原惟成

風のまゝにんをわねんをいふは

まゝにんをわねんをいふは

藤原義孝

白雲のまゝにんをわねんをいふは

おん

和泉式部

まゝにんをわねんをいふは

源重之

まゝにんをわねんをいふは

又のこゝろあつてけりあはれし心持のけり

大中臣能宣朝臣

我がぬれぬをよほくも海をよしのよふ心むらもよれ

初て女つらうらふ 大内匡衡朝臣

金れ思ひよほれわいしれ下まのよほれ

女と物つらうらふにみくけり

清原元捕

あつたあつた乃られ梅花思ひわめてし行ふもあはれ

年とつらうらふ海ゆら女乃らうらふ

とわらわらけりあはれし心持のけり

うけり

大中臣能宣朝臣

うけりあつた乃られ梅花思ひわめてし行ふもあはれ

年とつらうらふ 躬恒

あつたあつた乃られ梅花思ひわめてし行ふもあはれ

亨子院侍

あつたあつた乃られ梅花思ひわめてし行ふもあはれ

あつたあつた乃られ梅花思ひわめてし行ふもあはれ

謙徳公

あつたあつた乃られ梅花思ひわめてし行ふもあはれ

あつたあつた乃られ梅花思ひわめてし行ふもあはれ

まがしよる記由家も乃徳とまぐれは

題一うら

常祿好也

かゝ思乃雷よに孫さひあ草れは乃ふまぐれ今迄  
うらめしむとせ思乃浮よつらんじと人の  
よきせゆなれ二月もかめよるんゆけ

和泉武部

わとと小草れ津よんそりあじよんかゆ行  
題一うら

藤原豊風

勢乃うま松ゆまは所溪千鳥のるりあを孫との歌  
中納言実持

秋とて枝もとていとく病れ今別とてぬえらとて

藤原高光

秋風よ龍とゆも好やも孫乃も紫れつらつらとて

思草れもつらつらとてあつらひもく女乃りて

はつらつとて

花園方太長

我思草れもつらつらとてあつらひもく女乃りて

和歌可交合よと思意とつらつと

梅政太政大臣

いとのかゆら乃神松ゆめぬれとてあつらひもく  
小野又兼合よ思意とつらつと

天上天宮

糸巻玉乃りもくにいふは河毎のうらと袖丸にいふわ  
百首文をなやうとたふあは

前大儒正慈園

わつ葉を松と河魚の湯の〇てまくとる葉を風はく  
葉はあ合しゆらうよふ葉乃れ紙

梅政太政大臣

らきとあひの〇わらもよとれ流りわぬ袖とこのよ  
年蓮法師

思ひあれた袖は雲とついでとつらつら物とらふ蓮匠

水音歌よくたのこくと久慈との事とよん  
ゆいふ

太上天皇

思ひつれよけぬ身はいつあふゆわゆれはるあ  
百首歌の中へ思慈と

式子内親王

む乃とよきとあんだ舞の〇あふあはりの  
思へあふらあけらつたれは後のこあふるは月日  
我輩とあふははせく産流りもれつらあは  
百首歌よんたゆらつ時思慈

入道前守白吉政大臣



志おきよ乃ひびくを相とれも如波をわき  
冷泉院みくの文と申ける時さういふ女房  
とみこししてついでさういふさういふ  
さういふさういふさういふさういふ

謙徳公

つとねを懐くさういふはむかひの記とされ

西一

源氏一

雨さういふさういふさういふさういふ

西一

紀貫之

風さういふさういふさういふさういふ

道信別伝

次はわぬ乃浪かけ衣をいひてさういふ

さういふさういふさういふさういふ

西一

三條院女院令左道

ぬきさういふさういふさういふさういふ

五月又白さういふさういふさういふ

前大納言公任

晴さういふさういふさういふさういふ

西一

馬内侍

さういふさういふさういふさういふ

昔情作よ侍々時月よりあけりてあはれ  
そめあはれうらうら

法成寺入道前持政大政大臣

郭公勢もくまひこれ乃其にまゆまればと

む—— 子に侍

かゝるいそれあはれとてあはれとて勢乃もくまひ

時乃乃まよひあはれまよひあはれとて

公のこころにまあつ郭公今あはれとてあはれ

題—— 人 作樂

みよの浦もあはれまよひあはれとてあはれ

新波がみよあはれとてあはれとてあはれ

人磨

みよあはれとてあはれとてあはれとてあはれ

よる人あはれ

うらまへとてあはれとてあはれとてあはれ

あはれとてあはれとてあはれとてあはれ

あはれとてあはれとてあはれとてあはれ

あはれとてあはれとてあはれとてあはれ

あはれとてあはれとてあはれとてあはれ

あはれとてあはれとてあはれとてあはれ

我袖も泣きついでに涙千鳥のあはれがごとく思ふ  
おれりともわづらひ侍らるは侍となくおれり  
しう侍侍  
中納言兼捕

冬れぬ乃なまよふふ我袖乃をよのあしみの侍  
題一らす  
藤原元真

霜もあはれとひぬ冬の池はあはれそがく思ふ  
海河乃をくくわあるねときぬ人のあはれ  
女侍らるは  
実方物臣

いふまじられ侍乃なるえの海とよあはれ  
女侍らることひくみくはせく侍られた

誰そこの泣きついでに涙千鳥のあはれがごとく思ふ  
題一らす  
小舟

我も泣きついでに涙千鳥のあはれがごとく思ふ  
侍侍

わが泣きついでに涙千鳥のあはれがごとく思ふ  
人侍らるは  
藤原元真

浪乃浦は遠き乃をわづらひしう侍侍  
題一らす  
藤原元真

わが泣きついでに涙千鳥のあはれがごとく思ふ  
若之

おーいさしりすたさるん海あふあつて今も  
おのりすたさるん海あふあつて今も

坂上見則

よーのりすたさるん海あふあつて今も

青祿好忠

おーいさしりすたさるん海あふあつて今も

おーいさしりすたさるん海あふあつて今も

おーいさしりすたさるん海あふあつて今も

松平定信

おーいさしりすたさるん海あふあつて今も

百首あたるん海あふあつて今も

後政太政大臣

おーいさしりすたさるん海あふあつて今も

おーいさしりすたさるん海あふあつて今も

式子因親王

おーいさしりすたさるん海あふあつて今も

指中納言長房

おーいさしりすたさるん海あふあつて今も

おーいさしりすたさるん海あふあつて今も

指中納言師俊

おーいさしりすたさるん海あふあつて今も

和歌可哥合子思恋とよむ

梅政を政大臣

誰波今つるえに梅とよむ余の思ふに梅とよむ  
梅若恋とらふあふとよむ

皇太后を天皇御母

わなみらるめと濃し梅<sup>や</sup>はなふくは淡と梅<sup>や</sup>はな

題しらす 相換

逢まてあはるあはつふかひを梅<sup>や</sup>はなふくは淡と梅<sup>や</sup>はな

葉平朝臣

あはるあはつふかひを梅<sup>や</sup>はなふくは淡と梅<sup>や</sup>はな

新古今和歌集卷第十二

恋歌二

み十首ありてまわりの一首を恋

白河太后文太皇太后

あふのえいふひまはくせん煙ゆるたがはれぬかき

攝政大臣家百首の合

藤原定家朝臣

かひいかに海をわたりてかたむねをたて煙いふよと存す

百首の合

攝政大臣

恋のこころは浦のうらみかたの神のこころ

恋のこころあり 二條院僧徒

あふのえいふひまはくせん煙ゆるたがはれぬかき

こころをわたりて恋のこころをたて煙いふよと存す

後醍醐天皇

若くはあふのえいふひまはくせん煙ゆるたがはれぬかき

恋のこころあり 白河太后

あふのえいふひまはくせん煙ゆるたがはれぬかき

あふのえいふひまはくせん煙ゆるたがはれぬかき

恋のこころあり 攝政大臣

しんせいのちかたの初瀬ぬまれく下にまゝ

急ぎあわしめく人行くく

後徳大寺方大臣

まゝのちかたの初瀬ぬまれく下にまゝ

殷富門後大輔

のちかたの初瀬ぬまれく下にまゝ

急ぎあわしめく人行くく  
道徳院方

まゝのちかたの初瀬ぬまれく下にまゝ

急ぎあわしめく人行くく

花園方大臣

今これ無き我為しきりかきとみりかきくは海蔵

急ぎあわしめく人行くく  
神祇伯頭仲

まゝのちかたの初瀬ぬまれく下にまゝ

急ぎあわしめく人行くく  
清輔朝臣

まゝのちかたの初瀬ぬまれく下にまゝ

急ぎあわしめく人行くく

雅範

まゝのちかたの初瀬ぬまれく下にまゝ

急ぎあわしめく人行くく

方徳大寺方大臣

恨われし母はれ乃蘇いむむのほろ大徳つ

二條院灌頂

うらふらふにたむく人のこころは浦の雲かへさ  
和方お奇命は依思増進よりまゝ

春之指太史公繼

あふくは右回つきの香川をせまきふう水海結

歌三つ次

法徳

今もこゆるあはれおの思ひくかかればと袖をくま

西行法師

ふゆのからる乃と海は独おく人なほとてむもつ

あめぬれしとにたうとてまててまててまてて

あふぬれぬ乃十五首奇命は夏也と

極政太政大臣

草ぬりたな野をゆきとかのちとよとてぬれぬ

入道兼実白右大臣は侍をり河百首奇命は

よませゆらうは思也乃公と

太宰大貳重家

後方せよけく海はつひあてまやあやせまう

大細言成通も丸つらうをれとれあうり

女と後のせよて恨のこころをうし申をた



讀み合ふ

玉をねのこふかめかきとてはなせまふ根のこね  
第大細言證房中およゆるらに首通る場  
いとわね目よかむらさちよ物さゆるあり女を海  
津くしーら

第大細言證房

ながわねこめあをれとあつらふれは  
ぬわをわけてちかふなふじぬめいと方とま  
千五百歳方合  
た清門経通光  
あつらひしれあふ一物とあふあつらひしりなを  
あつらひしりなを

雨のあまの白女よつらうら

皇太后文太史後成

思ひわちあそあしれあふかむじまをあそまてまぬ  
水骨漱漱千五百歳方合

梅政左政大臣

あつらひしれあふかむじまをあそまてまぬ  
欲言かあそまらうら

藤原忠定

あつらひしれあふかむじまをあそまてまぬ  
百首奇しうら

自注八后文右史後漢

遠事の初め野見里のうたが志のよきものなるは  
入道前実白右大臣の侍りたる百首歌の  
中の思意

らむれをきかへて草花がゆきと落くる下袖のうた  
題一うた 藤原元真

あまのうたをきかへて草花がゆきと落くる下袖のうた  
女侍うた 藤原義孝

うたをきかへて草花がゆきと落くる下袖のうた  
景徳院の百首歌のうたのうた

大炊少門右大臣

我輩のうたをきかへて草花がゆきと落くる下袖のうた  
入道前実白家より百首歌のうたのうた  
うたをきかへて草花がゆきと落くる下袖のうた  
女侍うたのうた

藤原秀能

うたをきかへて草花がゆきと落くる下袖のうた  
海をきかへて草花がゆきと落くる下袖のうた

藤原元真

と海に響く神の吹く風は小舟を揺るがす  
栲波を政大臣家方合よと見ゆる

兼蓮法師

わがとてわがぬはりれ若狭川栲波のにそは  
千六百番方合よ 栲波を政大臣

かけのあふ今とてははる若狭川流れぬわが  
百首方よと見ゆる

二條院清政

波川なる公はわが波をきつてかかひせし神を  
栲波を政大臣百首方よと見ゆる

多松院右衛門佐

とわがわがとてわがぬはりれ若狭川流れぬわが  
悪方よと見ゆる 浪人方よ

あつわまるなる波とせはぬとては神を  
入道前用白大臣方合よ

道因法師

紅小波なる公はわがとてわがぬはりれ若狭川  
百首方よと見ゆる 武子内親王

あつわまるなる波とせはぬとては神を  
かこいゆる方合よと見ゆる

徳川家

乃ては後世に傳へし思ふにわが名は

子に傳へし思ふにわが名は

乃ては後世に傳へし思ふにわが名は

子に傳へし思ふにわが名は

乃ては後世に傳へし思ふにわが名は

子に傳へし思ふにわが名は

徳川家

乃ては後世に傳へし思ふにわが名は

子に傳へし思ふにわが名は

乃ては後世に傳へし思ふにわが名は

子に傳へし思ふにわが名は

徳川家

乃ては後世に傳へし思ふにわが名は

子に傳へし思ふにわが名は

徳川家

乃ては後世に傳へし思ふにわが名は

徳川家

乃ては後世に傳へし思ふにわが名は

子に傳へし思ふにわが名は

指中糸巻後方

あまの石のいふつらふらふらとまの糸巻とまの糸巻と  
百首舞し申さるゝのちのちと

推し歌

あまの石のいふつらふらふらとまの糸巻とまの糸巻と

石湯の普通具

あまの石のいふつらふらふらとまの糸巻とまの糸巻と  
水巻糸巻十五首舞し申さるゝのちのちと

申し石巻の糸巻後成女

あまの石のいふつらふらふらとまの糸巻とまの糸巻と

冬恋

完家抄后

あまの石のいふつらふらふらとまの糸巻とまの糸巻と  
あまの石のいふつらふらふらとまの糸巻とまの糸巻と

有家抄后

あまの石のいふつらふらふらとまの糸巻とまの糸巻と  
あまの石のいふつらふらふらとまの糸巻とまの糸巻と

有家抄后

あまの石のいふつらふらふらとまの糸巻とまの糸巻と  
あまの石のいふつらふらふらとまの糸巻とまの糸巻と

あまの石のいふつらふらふらとまの糸巻とまの糸巻と

あまの石のいふつらふらふらとまの糸巻とまの糸巻と

象ノ首欵合一付之ヲ新造スルニ

格致ヲ取テ長

ノ首ノ長ニテヨク貴クハ袖ヲ玉ラシ物ヤル

定家朝臣

良ト魚ノ方ヲ禁ルルモ此ノ方ニハ

カシ思ハルルナキヤ

曾志居文太史後跋

ノ首ノ長ニテヨク貴クハ袖ヲ玉ラシ物ヤル

起一ニ

指中納言長方

新ニ此ノ方ヲ禁ルルモ此ノ方ニハ

殷富ノ後大捕

カシ思ハルルナキヤ

八條院ノ倉

ノ首ノ長ニテヨク貴クハ袖ヲ玉ラシ物ヤル

西行法師

カシ思ハルルナキヤ

新古今和歌集卷第十三

戀歌三

申関白る隆かよひそめ侍りぬ

後周三司母

伊周の母一茶院右ノ兄  
伊周三司母也

馬止り来りてまかへれはなむかきわらふとてか

悪むら女どうわうわなわあまよひてはかみあ

ふちの御うらうら 徳徳公

かきわめ結ひとさうあ草枕の心よりいと思ひし人

題一らむ

業平朝臣

思ふは海を渡るよそより来たらばかきわらふ思はらむとわら

人乃りしはよかりそめて別うつら一巻り

廉義公

所白くわたりしよとて思ひしよふ余れゆとて思

百首奇しよ 武子四歌王

わふとそく松う枝乃し草つた志下る袖はら

頭中將よ侍けぬ河を常可たしんし申袖

くはあそくはさそく一う

源正清朝臣

あふふもふそをわくつたひひけし露し袖ぬれく

疑しうん 西行法師

わふもく余りふと思ひしんもくわらるるうそふ

三條院女院人右近

ふかふもく漂乃うわ衣そとふわうそ侍らわがけん

豊風

遠きもくかひあつわらうそとふ乃んもあはれあひあ

実方朝臣

中ふお思ひあつて孫のわらわんふたはあそとそや

思ひあつてあつてあつてあ

伊藤

あふとふかふあふあふあふあふあふあふあ



題一らん

和泉武部

花ぬきつねのふりしるすい若くはあまのまはらのま

今おらひて 馬内侍

きてとふかひはまきくはれはまきくはとあうらぬき

女よつとら

藤原範成の后

はるかちの海は年を忘らなくはれはまきくはとあ

題一らん

三倉院の后

きまむらひ待て思ひよたは海はまきくはとあうらぬき

初冬並に

後頼朝の后

われはるまきくはとあうらぬきはれはまきくはとあ

題一らん

よるん今も

かむとあふ伏せんの野色は草花露のあまきくはとあ

人志れはまきくはとあうらぬきはれはまきくはとあ

よつとら

相模

侍はまきくはとあうらぬきはれはまきくはとあ

題一らん

實方朝臣

わががたに身は海はまきくはとあうらぬきはれはまきくはとあ

修徳

遠事わがたに身は海はまきくはとあうらぬきはれはまきくはとあ

九月十日わがたに身は海はまきくはとあうらぬきはれはまきくはとあ

あつせほつらよつらふねのめ  
よつらつら  
右宰相敦道親王

結成のまゆ乃月のまゆのまゆのまゆ  
歌あつら  
道伝親王

とあつらぬ我がれつらふらぬまゆのまゆ  
道伝親王またよつら

延喜元年

とあつらぬまゆのまゆのまゆのまゆのまゆ  
清和  
更衣深周子  
御落したまはつらふらぬまゆのまゆのまゆ

延喜元年

園融院清和

とあつらぬまゆのまゆのまゆのまゆのまゆ  
謙徳公

つらひか今まゆのまゆのまゆのまゆのまゆ  
清慎公

とあつらぬまゆのまゆのまゆのまゆのまゆ  
夏乃取女  
つらひか今まゆのまゆのまゆのまゆのまゆ

藤原清和

とあつらぬまゆのまゆのまゆのまゆのまゆ

女乃こよかといえ地てわめよつらうらむ

大納言清盛

何と侍りし心はさる春乃其の春も若くは家の  
なまじりし心はさる春乃其の春も若くは家の  
よらんの心はさる春乃其の春も若くは家の  
はらうらめなるよ

和泉式部

なまじりし心はさる春乃其の春も若くは家の  
なまじりし心はさる春乃其の春も若くは家の  
なまじりし心はさる春乃其の春も若くは家の

赤深清心

なまじりし心はさる春乃其の春も若くは家の  
なまじりし心はさる春乃其の春も若くは家の  
なまじりし心はさる春乃其の春も若くは家の

九條入道右大臣

侍つとも君をよかあふもあふもあふもあふも  
小八條乃文をよかあふもあふもあふもあふも

亨子院清奇

多花の御家結けはむきとあひぬつてはるは  
多花の御家結けはむきとあひぬつてはるは

藤原惟成

あふもあふもあふもあふもあふもあふもあふも  
あふもあふもあふもあふもあふもあふもあふも  
あふもあふもあふもあふもあふもあふもあふも  
あふもあふもあふもあふもあふもあふもあふも

実方朝臣

ねまじりし心はさる春乃其の春も若くは家の  
ねまじりし心はさる春乃其の春も若くは家の  
ねまじりし心はさる春乃其の春も若くは家の

二條院法時ありつゝふりあふんを承りし  
事記 二條院積政

あひぬれをまゝをくちて人の袖とほひつる非  
題一らく 西行法師

ねと勢よりとらけりし別れを承りし今月分りて  
後朝熊乃心と 積政を政大臣

又とこじれとあひつりかめとてなれてそらる春れ曙  
芳よりいふやあふんを承りし今月分りて  
てはらうりたる 加茂成助

流れて素よりし道芝れ承りし今月分りて

あふんを承りし今月分りて  
あふんを承りし今月分りて

左大臣朝光

流るるあふんを承りし今月分りて

三條院白女侍入内れりし今月分りて

三條院法師

あふんを承りし今月分りて  
法性寺へ入るる白女侍を承りし今月分りて

右大臣道隆

あふんを承りし今月分りて

題一

小竹流

たけのこは竹の子の都てふにあらぬ別のものなり

藤原為家

是とてあらぬはれはわがわがとしききなり

西行法師

まじりて思ひ出せぬわがこゝろはぬとてれつちぬ

清原元輔

大野川せよ乃まじりてこゝろはぬなり

まじりて思ひ出せぬわがこゝろはぬとてれつちぬ

後人志

夕暮よ今かひも思ふなり

西行法師

定家朝臣

あつたあつた風はなれぬ

出雲守

若上天皇

あつたあつた風はなれぬ

水鏡

接政

あつたあつた風はなれぬ

多風集

文内卿

まを侍ふとてあはれ風いふとちりし若き侍あり

題一ら次

西行法師

今こそ風はうたもゆめあはれ侍はる侍あり

八條流多念

侍はゆめあはれ侍はる侍あり侍はる侍あり

鴨長明

まを侍ふとてあはれ侍はる侍あり侍はる侍あり

藤原秀能

今まじとあはれ侍はる侍あり侍はる侍あり

侍はる侍あり

武子日記

若らと園いふとあはれ侍はる侍あり侍はる侍あり

悲歌といふあり

西行法師

あはれと若らとあはれ侍はる侍あり侍はる侍あり

定家納言

あはれとあはれ侍はる侍あり侍はる侍あり

題一ら次

いふ人志あり

若らとあはれ侍はる侍あり侍はる侍あり

人丸

あはれとあはれ侍はる侍あり侍はる侍あり

あはれとあはれ侍はる侍あり侍はる侍あり

葉のひらく花乃をひきまき草とよむとよむとよむ

あよ  
まのひら

何事もあらざりて心もわらぬひかり草は花と霜がれぬ

天磨法師の涙はあわれむと伝ふれぬ

大和  
葉の散りぬ

あはれに浮世をたもてぬらぬあはれに浮世をたもてぬ

あはれに浮世をたもてぬらぬあはれに浮世をたもてぬ

坂上意則

夢の如く秋の野あらはれぬあはれに浮世をたもてぬ

三條院みこ乃文と申すはあはれに浮世をたもてぬ

い海にのりたれぬ  
安法と師母

世はのりたれぬあはれに浮世をたもてぬ

題  
中納言家持

あはれに浮世をたもてぬあはれに浮世をたもてぬ

延喜法師

あはれに浮世をたもてぬあはれに浮世をたもてぬ

指中納言教房

あはれに浮世をたもてぬあはれに浮世をたもてぬ

百首神中六  
源重光

あはれに浮世をたもてぬあはれに浮世をたもてぬ

題一うら

安法と師母

独りたのめら痛乃産れよまわんれく世の縁ありん

源重三

心懸り信はるゝもかめいん袖ぬれぬとまかひいし

黄三

あつて思ふもあはれをたぬ歌よいぬらうれ

あつて思ふもあはれをたぬ歌よいぬらうれ

おれたにこころあつていふかたはたみん

うらみちると女あかひをれいひのいぬらうれ

平定友

傷とて世に森乃ゆたをたうまつらうをれをば

今津うら

高羽院清友

侍片わらわかほしりら女よ懸らゆかたをうら

うらみちると

入道前実白太政大臣

我があつたもあつたわらわも今世のわらん思ひわん

持政若政大臣兼大前首命子孫世にあらはれ

前大僧正慈園

あつたもあつたわらわも今世のわらん思ひわん

女とてあつたもあつたわらわも今世のわらん思ひわん

後かこもあつたもあつたわらわも今世のわらん思ひわん



方清の巻

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

後人志

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

小待後

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

殷富門院大捕

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

刑部孫頼持

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

西行法師

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

皇太后文太皇太后

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

也

藤原定家朝臣

昔の如くしめしむるもなほまじく思はれぬにや

新古今和歌集卷第十回

恋歌

中将下侍名河女より

清慎公

とくお君よあはれ思ひつゝ今も侍の縁のな

也

清俊公

君ふも思ひ出さるる心よゆきつゝ今も侍の縁のな

少納言三十一藤原公純

あはれ思ひ出さるる心よゆきつゝ今も侍の縁のな

少納言藤原公純

物心ものこころのちからをもちてはかたし一の處

謙徳公

別ある自今の一も一備はるべきものなりなりと云ふはとあり

——

太子殿たすひのとの 贈中居おんぬかひの母

御白おのしらべのちからをもちてはかたし一の處

入道にりだう 接政せつせいのちからをもちてはかたし一の處

のちからをもちてはかたし一の處

右大臣みぎのわらわのちからをもちてはかたし一の處

左大臣ひだりのみやうのちからをもちてはかたし一の處

右大將みぎのほむらのちからをもちてはかたし一の處

右大將みぎのほむらのちからをもちてはかたし一の處

陽明門院

のちからをもちてはかたし一の處

——

伴御ばんご

のちからをもちてはかたし一の處

右大將道總母

のちからをもちてはかたし一の處

——

天曆法てんりつぽうの母

のちからをもちてはかたし一の處

五三二五三三三三三三三三

延喜式

あはれなる野をこし草をたむけしむるはあはれなる草のたむけ

いぬ ———— ちんちん

浅茅のり野をこし草をたむけしむるはあはれなる草のたむけ

春よなわけてよさうにほろろのさあやうなれんぬ

いぬ ———— ちんちん

いぬ ———— ちんちん

茶御子女王

あはれなる野をこし草をたむけしむるはあはれなる草のたむけ

いぬ ————

延喜式

今こそまじりつゆのさあやうなれんぬ

あはれなる野をこし草をたむけしむるはあはれなる草のたむけ

茶御子女王

あはれなる野をこし草をたむけしむるはあはれなる草のたむけ

いぬ ————

茶御子女王

あはれなる野をこし草をたむけしむるはあはれなる草のたむけ

あはれなる野をこし草をたむけしむるはあはれなる草のたむけ

いぬ ————

あはれなる野をこし草をたむけしむるはあはれなる草のたむけ

わび

わび藤原公

松三郎

わびのうらみはなほおもひのこりておのれをいふ

あはれ

後朱雀院

あはれはなほおもひのこりておのれをいふ

あはれ

女御

あはれはなほおもひのこりておのれをいふ

あはれはなほおもひのこりておのれをいふ

あはれ

實方院

あはれはなほおもひのこりておのれをいふ

あはれ

あはれ

あはれはなほおもひのこりておのれをいふ

天曆院

あはれはなほおもひのこりておのれをいふ

あはれ

仲務

あはれはなほおもひのこりておのれをいふ

中務

あはれはなほおもひのこりておのれをいふ

新直

あはれはなほおもひのこりておのれをいふ

とるんやーいん

わあらんやーいん  
おあらんやーいん  
いんやーいん

いんやーいん  
いんやーいん

いんやーいん  
いんやーいん

肥後

いんやーいん

いんやーいん

後徳大寺たむ

いんやーいん

西行法師

いんやーいん

八瀬院子倉

いんやーいん

百首あや

古上天尊

つららゆりかきし袖乃折ぬちかくし折れ行なり

ひふ百歳を命し 核政を政大臣

わらわらふし限をうらむねん月を過しんそはれ海を  
我海りの袖もわらわらさむとて命乃かりんわら

指申細を公卿

きよき海をえんしんはうん光あとかんら福をねん

右侍の侍通光

持くのわらわら月を過しんはれ中をうらわら

右侍門侍通具

今こじと袂しんはれをうらわらなれ乃月

有実朝臣

あしとひしあわら若おとそはれ海の月をうらわら

是しんはれ 核政大臣大臣

思ひてんはれ月をうらわらしんはれしんはれしんはれ

実清朝臣

あしとひしあわら若おとそはれ海の月をうらわら

法眼宗園

あしとひしあわら若おとそはれ海の月をうらわら

藤原秀敏

あしとひしあわら若おとそはれ海の月をうらわら

八月十八日和歌一首をて月前書とす

橋政左衛門右衛門

日くしむははらむとてあまをわらふとてはつとてはつとて

有家朝臣

あまをわらふとてあまをわらふとてあまをわらふとてあまをわらふとて

定家朝臣

松山とてはつとてあまをわらふとてあまをわらふとてあまをわらふとて

子又百首あまをわらふとてあまをわらふとてあまをわらふとて

あまをわらふとてあまをわらふとてあまをわらふとてあまをわらふとて

御藤の家あまをわらふとてあまをわらふとてあまをわらふとて

二條院僧正

松山とてはつとてあまをわらふとてあまをわらふとてあまをわらふとて

橋政左衛門右衛門百首あまをわらふとてあまをわらふとてあまをわらふとて

宗蓮法師

あまをわらふとてあまをわらふとてあまをわらふとてあまをわらふとて

題一らあまをわらふとてあまをわらふとてあまをわらふとて

あまをわらふとてあまをわらふとてあまをわらふとてあまをわらふとて

有原保季朝臣

形とてはつとてあまをわらふとてあまをわらふとてあまをわらふとて

法橋行通



若新としてこれ後芽い...  
接政者政大臣家百首...  
家清朝臣

馬をいふれ...  
家清朝臣

風...  
百首...  
接政大臣...  
家清朝臣

作...  
子...  
家清朝臣

思...  
二...  
刑部...  
家清朝臣

馬...  
殿...  
家清朝臣

馬...  
西...  
家清朝臣

...  
建仁元年三月...  
家清朝臣

法門の御書

わんごん昔の御書にうんごんをいふはうんごんをいふはうんごんをいふは

指中納言の御書

わんごん昔の御書にうんごんをいふはうんごんをいふはうんごんをいふは

右衛門督の御書

わんごん昔の御書にうんごんをいふはうんごんをいふはうんごんをいふは

律蓮法師

わんごん昔の御書にうんごんをいふはうんごんをいふはうんごんをいふは

具教門院の御書

わんごん昔の御書にうんごんをいふはうんごんをいふはうんごんをいふは

法門の御書

権政の御書

わんごん昔の御書にうんごんをいふはうんごんをいふはうんごんをいふは

有家朝長

わんごん昔の御書にうんごんをいふはうんごんをいふはうんごんをいふは

淡人の御書

わんごん昔の御書にうんごんをいふはうんごんをいふはうんごんをいふは

西の法師

わんごん昔の御書にうんごんをいふはうんごんをいふはうんごんをいふは

入道前白太政大臣の御書

松尾法師

我輩今とわがわが悔れ若婦の如く言はれぬ

題一らん

式子内親王

いふとわがわが悔れ若婦の如く言はれぬ

系方合よ

梅政を政大臣

いふとわがわが悔れ若婦の如く言はれぬ

前大僧正意圖

いふとわがわが悔れ若婦の如く言はれぬ

和歌可とて方合一作一は遠不遇悲れぬ

宗蓮法師

思ふわれ思ひしるふ身乃わがわが悔れ若婦の如く言はれぬ

多言漸無十又首方合よ

大上天皇

いふとわがわが悔れ若婦の如く言はれぬ

多言漸無十又首方合よ

思ふわれ思ひしるふ身乃わがわが悔れ若婦の如く言はれぬ

雅理

草花結いさうめんかきさうめんかきさうめんかき

和歌可とて方合よ深山悲れぬ

宗蓮法師

さりとてねんれぬれ乃の山を少風と依りて  
藤原秀徳

思ひはぬれ乃たなまらうそ其れは山を  
題一うん 鴨長の

かめとわなれれ行可下はれきふか新法  
子又百毒各々 右清の書道具

あめぬらわし秋とさぬれ我方所毎とゆめ  
定家朝臣

かまひぬらうか乃秋れは身成のれれ下  
携政志政大臣家各々

常蓮法師

あめと秋れ常一はわもげぬん恨ふとら松  
垂乃うらうとて久待乃

前大僧正意圖

我其はぬれしは蘇うかれく今とて乃成と枯  
被忌悲乃とと 太上天曾

定家朝臣

袖乃露とわぬれ乃れ清うかつれか  
定家朝臣

定家朝臣

さりとてねんれぬれ乃の山を少風と依りて

あつまつあつまつ 袿のたがふとぬきをきりたしけ

皇太后の御成女

あつまつあつまつ 袿のたがふとぬきをきりたしけ

梅政の政大臣の御成女

前大僧正の御成女

あつまつあつまつ 袿のたがふとぬきをきりたしけ

百首の中六 式子同親王

あつまつあつまつ 袿のたがふとぬきをきりたしけ

あつまつあつまつ 袿のたがふとぬきをきりたしけ

暁葉の御成女 前大僧正の御成女

あつまつあつまつ 袿のたがふとぬきをきりたしけ  
子又百首の中六

掇中納言の御成女

あつまつあつまつ 袿のたがふとぬきをきりたしけ

定家朝臣

あつまつあつまつ 袿のたがふとぬきをきりたしけ

あつまつあつまつ 袿のたがふとぬきをきりたしけ

雅朝臣

あつまつあつまつ 袿のたがふとぬきをきりたしけ

あつまつあつまつ 袿のたがふとぬきをきりたしけ

ゆわいおまの毎に袖の紐は作りのよきと為す  
かきいし宿乃みらまてかたふたはるまじしとせり

新古今和歌集卷第十五

恋哥又

水戸歌恋十又首哥合小

藤原定家朝臣

白おれ袖の別れは色むらあふあしはなれ風を

藤原家清朝臣

思ひの家乃をゆ草れ秋乃露ぬれもまのし

前大僧正慈光

野き乃あつらとがくてもさなれつ袖をわさる花

題一六

藤原家隆

あまのひく野をけし家いひてまじし惟ふあふの翁ふまじ

右清の翁通具

まふかむ花のりし思ひ草まきりや野乃房いふま

実よ恵十又首あふらん侍まけい。

権中納言俊忠

あふまのまきりふゆめと露おれ侍ふ思下し家かた

題一らふ

通信物信

わしおわし思ひしわとも君いかに思れぬ袖はら房

藤原元吉

はあふまて我方と露とまふらん清あつふまけし

まらりて侍る女れはよまかたわたりし思  
ゆえれしうりたまふこよかて思て

和泉式部

今まじと侍る人のとかれぬいふあけ露れ何由遠

た乃免もり事侍るくまわ侍よまら思れく

わめあまのしと侍るるを事よ

藤原長能

わしこの家よとく露れまこりままおとまかたは

藤原雅成よけつとてし家か

藤原元吉

うらたてくも 藤の海 武蔵野の山 秋の夕 月夜 雲の

也

藤原雅成

秋乃も 露の草 秋の夕 月夜 雲の

題一うら

花山院の

秋夜さくも 秋の草 秋の夕 月夜 雲の

ひさしきよの

光孝天皇御

君せぬ 秋の草 秋の夕 月夜 雲の

秋の

よる

秋の夕 月夜 雲の



みら乃ふれわくし 月夜 雲の

秋の夕 月夜 雲の

思ひも 秋の夕 月夜 雲の

秋の夕 月夜 雲の

六條右大臣

秋の夕 月夜 雲の

相摸

秋の夕 月夜 雲の

藤原





ひねり手すのりかき別家よ書けりいづる所を種あはれ  
我を志あふふえそ女も思ふれ今もそふし新そのは

女丸

夏野のしよあのはらうつ乃月と志とばし侍もかき  
去草れ露か衣こもせぬよなむわ袖ののくこつ

八代女

口後と志あふらよしの思ふよらめそよしよきく  
清原深草文

恨けぬらおれ袖乃あそふぬこ花乃きんよきんわい  
中納言安持よはらうこくも

口女

わもそあみらよ家塩れもよし思ふよ若もさくひら  
去一海乃よふうたあめ浮流れかきあふのの海女

赤澤清門

侍に福くみえく成らんこわら思ふわぬわぬわぬ  
赤澤清門

侍好

花よひの福のゆめよあそびぬ思ふらりらひの  
春乃思れあよあはれよみえつらくはつら今

蔵持

春風の香乃三  
きつるきつるきつる  
かめあわ

高子

ぬるまはいつはらとまら  
あはれいふ

長乃夜女のり  
かめて朝よ

能宣

あつたわすれわ  
はる夜よ  
あつたわ

常蓮法師

海川かとうたぬ  
あはれいふ

百首

実階

あつたわすれわ  
あはれいふ

基後

ゆがらわらわ  
あはれいふ

中右衛門

あつたわすれわ  
あはれいふ

定家朝臣

かきわらわ  
あはれいふ

和歌

中右衛門

あつたわすれわ  
あはれいふ

悲哥

或子同義

とれはまの命と歌の 我のまの命がわの世

并

とふら世に終るといふは侍と今に終るは

崇徳院より百首ありしもの時悲哥

白太夫の文太史後跋

思ひ候へる向歌とてとて悲きわらんがわ

題

相模

あつたはるまき若きとていふは求ぬ袖乃割られ

なほのりいさくといはれはあつたわ

馬回侍

ほめはまの事とていふはとていふは

いふみけるは若き若き乃とていふは

あしはあつたはといふは

若き道の程とていふは

そつちあつたはといふは

津島仲友

花のつれはれ乃とていふは

あつたはといふは

其の



思ひつゝもみれど... 此は松葉... 此は松葉...

業平親王

いそ侍り... 梅乃む... 梅乃む... 梅乃む...

新交女侍... 天曆侍

天曆侍

何れ... 何れ... 何れ...

此は... 女侍御子

なげく... 光孝天皇

題... 光孝天皇

阿久... 此は...

此は...

兵部卿致平親王

思ひ... 題...

題... 那恒

雨... 并更衣... 乃

乃

延長侍

中... 新交女侍

新交女侍

らさむるは 近藤宗吉

春はて秋もくもむを思ひんかたむねの思はれぬ

題一らさむ 西文宗方大臣

初鷹乃らひふにさつとくしを海も遠くもつた

又鳥乃らうらうらよふん得るる今まのさつと

ら一げぬ 藤原雅成

とよ衣えんかめさうあはれあつた日けぬきとぬ

題一らさむ 藤原元真

後衣無きもぬきえんかた世よはあか我れかた

秋衣ぬきもぬきえんかた世よはあか我れかた

天曆中

えんあつたあはれ教もねえんかた世よはあか我れかた

いささかあつたあはれ教もねえんかた世よはあか我れかた

謙徳公

あつたあつたあはれ教もねえんかた世よはあか我れかた

題一らさむ 権中細之教

あつたあつたあはれ教もねえんかた世よはあか我れかた

藤原元真

あつたあつたあはれ教もねえんかた世よはあか我れかた

あつたあつたあはれ教もねえんかた世よはあか我れかた

久ねし

洛陽宮

教のつら海一り母のつら海三つ思ひのつら

題一ら

藤原惟成

今も思ひをよひてしるしうに願ひしは

ふらん女志

我らつらむら一悔ひ人あはれ袖乃るれ。君とれあ

今もあはれしとすれもあ乃我衣をぬしとて思ひ

玉くきあけけりけりあはれとて衣手かたてしあはれ

逢事とむけはあてしあはれ草葉れあのとすあはれ

秋の田んじり乃風あはれとて思ひ物思ひあはれ

らう磨れ野も乃るあはれとて思ひ思ひ思ひ思ひ思ひ  
はらう松のつらむらあはれとて思ひ思ひ思ひ思ひ思ひ  
い浪とまよとて思ひ思ひ思ひ思ひ思ひ思ひ思ひ思ひ  
しりあはれとて思ひ思ひ思ひ思ひ思ひ思ひ思ひ思ひ





